

注)更新部分を赤字に示す

平成28年熊本地震による感染症に関するリスクアセスメント表(2016年6月10日現在) 熊本県健康福祉部健康危機管理課・国立感染症研究所感染症疫学センター

	地域・避難所で流行する可能性 1. 低、2. 中、3. 高	公衆衛生上の重要性 患率・致命率・社会的影響) (罹) 1. 低、2. 中、3. 高	リスク評価 1. 低、2. 中、3. 高	コメント(症状が出現した際は速やかに申告するよう避難者、支援者を含めすべての避難所関係者に周知する)
<b>避難所の過密状態に伴う感染症</b>				
急性呼吸器感染症	3	2	3	避難所での過密状態が継続すれば発生リスクが高まる。気温・湿度の変動も病原体伝播・避難者の体調に影響する。レジオネラ感染症はがれき撤去等の作業に伴い発生するリスクがある。A群溶連菌の地域における増加が報告されている。引き続き手指衛生や咳エチケットを徹底する。 <b>手足口病とヘルパンギーナの地域における増加が報告されている。</b>
インフルエンザ/インフルエンザ様疾患	2	2	2	全国及び地域での活動性は低下傾向であるが、県下の定点報告では患者数は現在も一定数認めているため、引き続き注意が必要である。
結核*	1	2	1	発生リスクは必ずしも高くないが、咳が2週間以上続く場合には鑑別が必要である。治療中の避難者の場合は、確実な服薬継続が重要である。
<b>水系/食品媒介性感染症</b>				
感染性胃腸炎/急性下痢症(黄色ブドウ球菌・サルモネラ・カンピロバクター・病原性大腸菌・ノロウイルス・ロタウイルスなど)	3	2	3	避難所で胃腸炎の散発的な発生や食中毒事例が報告されている。ノロウイルス感染症は全国での活動性は低下傾向であるが、避難所においてはノロウイルス感染症の発生及び感染拡大のリスクに注意する必要がある。避難所における食中毒の発生については、気温・湿度の上昇等の影響により、リスクは今後も高まっていく。トイレの使用後、調理前、食事前、避難所に入出入りする際には個人の手指衛生対策を強化する。食品衛生管理の強化(手指衛生、十分な加熱、二次汚染防止、温度管理)、トイレの衛生状態の保持が重要である。
<b>野外活動等で注意する感染症</b>				
創傷関連皮膚・軟部組織感染症	2	2	2	がれき撤去等の活動に伴う受傷による破傷風や皮膚感染症発生の可能性がある。発症のおそれがある患者の予防処置としては、必要に応じて破傷風トキソイドの接種が行われる。
節足動物等の媒介による感染症	2	2	2	県内においてツツガムシ病、日本紅斑熱、SFTS(重症熱性血小板減少症候群)などのダニ媒介性感染症の発生が報告される時期に入ったため、発熱患者には屋外での行動歴や刺し口の有無を確認する。また、避難所によっては蚊の発生も見られているため、虫よけスプレーの使用など、蚊に刺されない対策をすとも、屋外の容器や廃棄物を水がたまらないように適切に処理すること。また、日本脳炎の定期接種対象者で必要回数受けていない場合は、早めに接種を受けるなどの対策が重要である。
<b>ワクチンで防ぐことのできる感染症</b>				
破傷風	2	2	2	外傷後、土壌曝露後に感染しうる。がれきや泥の撤去作業時にもリスクがあるため、発症のおそれがある患者の予防処置としては、必要に応じて破傷風トキソイドの接種が行われる。
麻疹(はしか)	1	3	2	輸入例等により持ち込まれ、また避難所に感受性者(乳幼児等やワクチン未接種者等)が居住する場合、重症かつ空気感染により伝播する麻疹は常に最大級の警戒をする必要がある。麻疹様症状を呈する者が認められた場合には速やかな隔離が必要である。
風疹	2	2	2	避難所での発生があると、ワクチン未接種の成人を中心に感染伝播する可能性がある。妊娠初期の感染は先天性風しん症候群のリスクがある。(妊娠中の風しんワクチン接種は禁忌)
ムンプス(おたふくかぜ)	2	2	2	地域によっては報告数の多い感染症として注意喚起がなされている。これまでに避難所での報告もあつたことから、引き続き注意を要する。任意接種ではあるが、予防のためにワクチンが用いられる。
水痘(みずぼうそう)	2	2	2	これまでに避難所での報告があつた。水痘は空気感染により伝播することから、避難所において水痘患者が確認された場合、ハイリスク者(乳児期後半・妊婦・免疫不全者等)、および未接種・未罹患の避難者については医療機関を受診するなど速やかに適切な対応をとる必要がある。定期接種対象者で未接種者は、早めに接種することが奨められる。
百日咳	1	2	1	定点からの報告によると、地域における百日咳の発生は極めて低いレベルで推移している。ただし百日咳様症状(持続的な乾性咳嗽や笛声咳嗽等)を認めた際には医療機関への相談等が必要である。定期接種対象者で必要回数受けていない場合は、早めに四種混合(百日咳、ジフテリア、破傷風、不活化ポリオ)ワクチンの接種を開始する。
肺炎球菌感染症	1	2	1	東日本大震災において発災直後から3週間程度の間肺炎球菌性肺炎が多発している。定期接種対象者で未接種者は早めに接種することが奨められる。
<b>その他</b>				
体液を介して感染する疾患(B型肝炎/C型肝炎/HIV)	1	2	1	
細菌性髄膜炎、ウイルス性髄膜炎	1	2	1	

\*被災直後よりも避難所での滞在が長期になった場合に問題となる

避難所における感染症の発生状況は、熊本県健康福祉部健康危機管理課からの情報を使用しました。事例が発生した避難所に対しては既に適切な対応がとられており、個人のプライバシー保護の観点から個人や避難所を特定するような報道や質問はお控えください。